

参加者の声



緑の少年団の参加者より

- 緑の自然を増やせて、すっきりしたいい気持ちになった。
- たくさん植えて楽しかった。
- 二酸化炭素を吸って温暖化を防止して、人が生き続けられる世界になるといい。

「やまがた絆の森」活動企業の参加者より

- 初めて植樹をしたが、森の力はすごいなとあらためて実感した。森づくりの輪を広げて県外にも発信したい。
- 森づくり宣言が心に響いて、森を大切にしたいと思った。
- コンテナ苗での植樹がとても簡単だったので、やまがた絆の森の活動でも活用したい。



ローメモ

植栽会場に元々あったスギの木は、東京オリンピック・パラリンピックの選手村で使われ、現在は山形市立西山形小学校の校舎などに再利用されています。

森林には二酸化炭素を吸収する働きがありますが、伐った後の木材も二酸化炭素を蓄えて大気中に排出しない性質があります。

建物に使うことで街の中の第2の森となり、炭素の固定に役立っています。

木を伐って、使って、植えて、育てる…緑の循環が大切ですね。



6月3日(土)、山形市大字門伝地内において「やまがた森の感謝祭2023・第73回山形市植樹祭」が開催されました。

天候にも恵まれ、約360名の参加者が、自然環境の恩恵に感謝し、森づくりへの決意を新たにしました。

式典では、「やまがた絆の森づくり」に取り組んだ企業を代表し、山形日産自動車(株)・日産プリンス山形販売(株)様、(株)山形銀行様及び山形信用金庫様へ吉村知事から「山形県CO₂森林吸収量認証書」が授与されました。

また、市有林の環境保全に尽力された管守人を代表し、大友憲一様へ佐藤市長から感謝状が贈呈されました。

山形市立東沢小学校緑の少年団の元気な「森づくり宣言」の後、参加者全員で花粉の少ないスギのコンテナ苗1,440本を植樹しました。